

2011年2月1日

<報道関係各位>

生活協同組合連合会コープネット事業連合



## フード・アクション・ニッポン アワード 2010 コミュニケーション・啓発部門 優秀賞を受賞

「日本を、食卓から元気にしたい。」を  
基本メッセージとした取り組みが評価されました

コープネット事業連合（本部：埼玉県さいたま市 理事長：赤松 光）は、『日本を、食卓から元気にしたい。』を基本メッセージにして取り組み、成果を上げているコープネットグループの総合的なキャンペーンの取り組み（以下：『日本を、食卓から元気にしたい。』キャンペーン）が、フード・アクション・ニッポン アワード 2010 のコミュニケーション・啓発部門で優秀賞を受賞いたしましたことをご報告します。

このたび受賞いたしました『日本を、食卓から元気にしたい。』キャンペーンは、「食料自給力向上」「地域の生産者応援」「むだをなくす」をテーマとした商品・活動の普及を目的に、2008年から開始した取り組みです。

コープの佐渡産コシヒカリの販売 1kg ごとに 1 円を「佐渡市トキ環境整備基金」に寄付する「コープネット佐渡トキ応援プロジェクト」、伊平屋島産もずく商品の販売 1 点ごとに 1 円を「コープネット美ら島応援基金」に寄付する「コープネット『沖縄もずく』美ら島応援プロジェクト」などは、商品の利用が食料自給力向上、生物多様性、環境保全などに直接つながっている取り組みです。

また、インターネット注文で数量限定販売している「産地支援野菜セット」「産地支援くだものセット」では、天候被害や規格外などの商品などを詰め合わせて販売することで、地域の生産者を応援しております。なお、当セットは、「産地を応援する気持ち、もったいないという気持ち」で組合員にご利用いただき、販売開始から数時間で売り切れるほどの好評をいただいている商品です。

そのほかにも、飼料用米を給餌した豚肉、独自の地産地消商品、天候被害果や余剰農産物の取り扱いなど、総合的な取り組みを進めています。

このように、当キャンペーンを通じて商品の利用や商品数、キャンペーン参加者が増加しており、生産者と消費者を結び付けるきっかけになっております。

コープネットグループは、「日本を、食卓から元気にしたい。」キャンペーンをさらに発展させ、食料自給力の向上に貢献してまいります。

なお、「日本を、食卓から元気にしたい。」キャンペーンのメニューや、「フード・アクション・ニッポン」につきましては、次ページをご参照ください。

●「日本を、食卓から元気にしたい。」キャンペーンについて

テーマ	展開内容	主な取り組み項目と内容			
基本メッセージ「日本を、食卓から元気にしたい。」	米の消費拡大	お米を食べることに焦点を当て、その意味の理解と行動へきっかけを作ることで、 ・米の消費拡大 ・自宅でできる組合員参加 ・産地との交流を実現する	①米の利用拡大 ②予約登録米(年間を通して米の購入を予約)の普及目標5万人 ③米粉利用商品の開発・普及 米粉パン、加工食品、使用商品約40品の開発や新規取り扱い ④「バケツ稲」の実施 5,000人の参加で実施 ⑤田んぼの生き物調査 ⑥産地交流(田植え・稲刈りなど)		
		飼料米を使った商品の普及・交流を通じて日本の米作りや飼料、飼料米についての理解促進と利用の拡大を図る	①米育ち豚の普及 肥育頭数前年86%増の19,400頭、2011年度はさらに33,000頭へ ②米たまごの普及 週当たり販売、359,658個(9月19日週) ③米育ち鶏の研究 ④産地交流(田植え・稲刈り) ⑤試飲会、料理講習会		
		国産品消費拡大	商品開発を優先し、商品を通じて日本の食・農業を応援する。また、商品の利用拡大につながるコミュニケーションを強化する。	①国産原料加工品の開発、普及 ②国産近海魚の利用拡大 約20品の開発や新規取り扱い ③国産小麦商品開発、普及 ④産直商品拡大 ⑤宅配ポイントを使った産地支援 農林水産省 実証試験事業として実施	
			産地視察・交流を通じて産地とのネットワーク強化と生産者と生協、消費者との相互理解を促進する。	⑥産地視察・交流	
			牛乳の消費拡大を通じて世界の食糧問題へ貢献するとともに、誰でも手軽に参加できる社会貢献を進める。	①ハッピーミルクプロジェクト コープ牛乳1本につき1円を、ユニセフを通じモザンビークの栄養プロジェクトへ寄付。2008年から毎年牛乳約2400万本の利用による、約25万ドルを寄付。	
		環境配慮	環境への配慮、生物多様性への理解を促進するとともに誰でも手軽に参加できる社会貢献を進める。	①生物多様性視点での商品開発 「沖縄もすく」美ら海応援プロジェクトとして開始 ②佐渡トキ応援プロジェクト 2010年4月協定を締結。11月には140万円を寄付。 ③JAS有機農産品、特別栽培農産品の利用を進めるために、グリーンプログラム拡大 ④循環型漁業との連携強化 MSC認証商品の取り扱いを増やす 「里海」応援の協定を目指す ⑤田んぼの生き物調査 ⑥エコプロダクツ出展 ⑦環境配慮商品普及	
	生産者地域の援			①エリア産直比率拡大 ②地域商品の開発と普及 コープネットエリア内(茨城、栃木、群馬、千葉、埼玉、東京、長野、新潟)で生産された商品の取り扱い増 ③産地地消牛乳の価値訴求 ④店舗地場野菜の充実 ⑤地場生産者との交流 ⑥職員研修 今年で3年目。今年度11名による2泊3日での農作業実習	
				むだをなくす	①食品残渣の飼料化と畜産物開発 ②食品残渣の肥料化と農産物開発 店舗の残渣を肥料としたエコ循環米「彩のかがやき」の取り組み ③農産品規格外、剰余物の供給 ④国産木材の端材利用 ⑤水産未利用魚種、規格外の商品化 ⑥料理教室 ⑦レシピの募集・交流

●「フード・アクション・ニッポン」について

「フード・アクション・ニッポン」は、農林水産省が平成20年度より「食料自給率向上に向けた国民運動推進事業」として立ち上げた国民運動です。コープネットグループは、「FOOD ACTION NIPPON 推進パートナー」として食料自給率拡大に貢献しております。

「フード・アクション・ニッポン アワード」では、食料自給率向上に寄与する事業者・団体等の取り組みを一般から広く募集し、優れた取り組みを表彰することで、食料自給率向上に向けた活動を広く社会に浸透させるものです。部門は、「プロダクト部門」「製造・流通・システム部門」「コミュニケーション・啓発部門」「研究開発・新技術部門」の4つに分類され、大賞、部門最優秀賞、部門優秀賞、入賞があります。

《生活協同組合連合会コープネット事業連合 概要》

【住 所】	埼玉県さいたま市南区根岸 1-4-13
【理事長】	赤松 光 (あかまつ ひかる)
【会員数】	370万人 (会員組合員計) ※2010年3月20日現在
【会員生協】	いばらきコープ、とちぎコープ、コープぐんま、ちばコープ、さいたまコープ、コープとうきょう、コープながの、コープにいがた
【総事業高】	4,820億円 (会員事業高計) ※2009年度
【ホームページ】	<a href="http://www.coopnet.jp/">http://www.coopnet.jp/</a>